

医療従事者の確保と、より高度な医療が求められる、三木市民病院と小野市民病院が統合し、開院しました。若い世代の働き手を育てるためにも、優秀な医師が集まる病院を設立することによって、将来有望な医師を育成することにもつながっており、非常に好循環になっています。充実した医療従事者の数の確保に加えて、最新機器の積極的な導入によって、すべての医療に対応できるようになり、国指定の「地域がん診療連携拠点病院」に認定されました。

医療においても働き方改革が求められている中で、すべての医療領域に対して、複人数の医療従事者の体制を整え、センター制を導入し、

10年を迎えて感じる変化や進化

病院長に聞く 北播磨圏域で連携し、より質の高い医療を

各分野で専門センターを順次開設することで、質の高い医療を提供できることが、当医療センターの強みです。

がん診療や救急領域（心臓・脳卒中など）については、ほかの病院よりも特化した受け入れ態勢を整えています。特に救急領域における血管治療については、高度な技術を持った医師がそろっているため、他市町からの要請でも、積極的に受け入れられるようにしています。

他市町と連携した医療体制をめざして

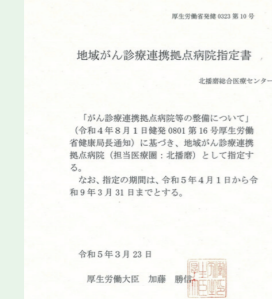
今後は、北播磨圏域の人口の減少に伴い、罹患される人や介護を必要とする人が増える中で、この状況に対応するためにも、北播磨圏域での連携した医療が必要であると考えています。そのため、がん診療や救急医療につい

ては重点的に伸ばしていきたい、職員の教育にも力を入れて、患者さんにとって安心して医療をうけられる場所となることをめざしています。北播磨圏域全体では、産婦人科医療と小児医療の従事者が非常に少なくなっており、個人医院の新規開業も見込めない状態です。そのことにより、一次救急・二次救急を全て診ることができるところについては、難しいのが現状です。

これらのことから、さらに広域で連携した医療を提供できる体制を整えることが、これからの課題です。



西村善博病院長



地域がん診療連携拠点病院指定書

質の高い医療を提供できるよう国が指定。専門的ながん医療の提供や、がん診療の地域連携協力体制の構築、がん患者や家族に対する相談支援およびがんに関する情報提供などを行います。



開院10年のあゆみ

～ニーズにあった医療体制をめざして～

北播磨総合医療センター ☎88-8800(番号の間違いに注意してください)



平成25年に開院し、今年10月1日で10周年を迎えた北播磨総合医療センター。10年のあゆみを振り返りながら、北播磨の中核病院であり、北播磨地域の医療を支える拠点として、患者さんが安心して受けられる医療をめざす医療センターの今後の取組について、病院長と中央放射線室長にお話を聞きました。

北播磨唯一の導入



内視鏡手術支援ロボット(ダ・ヴィンチ)

鮮明な3D画像と巧みな動きで内視鏡手術を支援。わずかな傷口で手術が行えるため体への負担を減らすことができます。



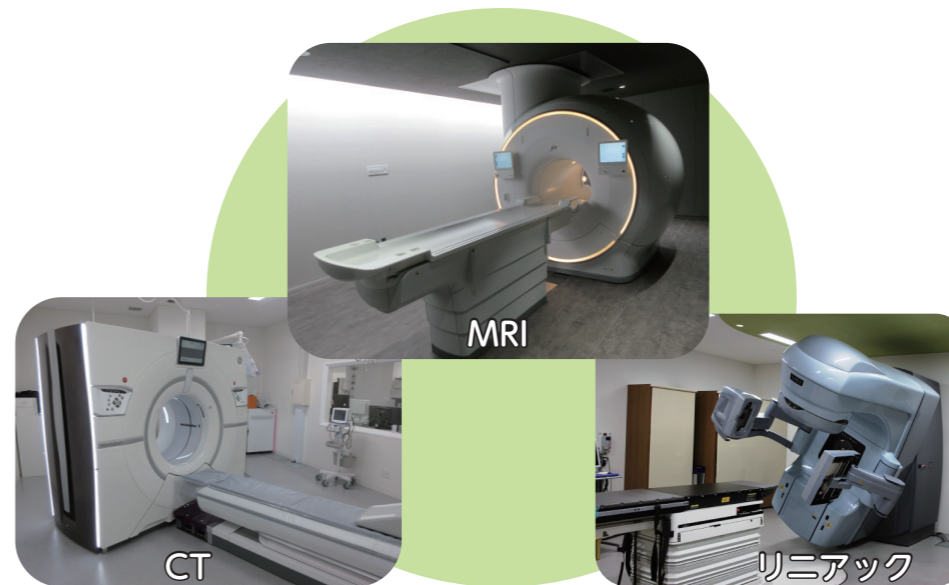
竣工式の様子

2023	2022	2021	2020	2019	2018	2016	2015	2014	2013	2010	2007	
<p>開院10周年</p> <p>国指定「地域がん診療連携拠点病院」に指定</p>	<p>一次脳卒中センターコア施設に認定</p>	<p>臓器別疾病別センター増設(呼吸器センター、外来化学療法センター、口腔機能管理センター)</p>	<p>がん総合診療センター設置</p>	<p>先端医療センター増設(低侵襲手術部門)</p>	<p>県指定がん診療連携拠点病院に指定</p> <p>一次脳卒中センターに認定</p> <p>放射線治療センター設置</p> <p>患者総合サポートセンター設置</p> <p>輸血機能評価認定制度(I&A)認証施設として認定</p>	<p>臓器別・疾病別センター増設(リウマチ・膠原病センター)</p>	<p>がん相談支援センター開設</p>	<p>臓器別・疾病別センター設置(消化器、循環器、脳卒中・神経、糖尿病、血液浄化、重症虚血肢)</p> <p>血液浄化センター(8床)完成</p> <p>病院機能評価3rd G(Ver.1.1)認定取得</p>	<p>先端医療センター設置(不整脈治療部門、ロボット手術部門)</p> <p>臓器別・疾病別センター設置(消化器、循環器、脳卒中・神経、糖尿病、血液浄化、重症虚血肢)</p> <p>血液浄化センター(8床)完成</p> <p>病院機能評価3rd G(Ver.1.1)認定取得</p> <p>がん相談支援センター開設</p>	<p>7階東病棟オープン(稼働病床440床)</p> <p>7階西病棟(48床)オープン(稼働病床390床)</p> <p>地域医療支援病院に認定</p> <p>SCU(脳卒中集中治療室)を開設</p>	<p>北播磨総合医療センター開院(稼働病床342床)</p> <p>7階西病棟(48床)オープン(稼働病床390床)</p>	<p>北播磨総合医療センター企業団設立(地方公営企業法全部適用)</p> <p>神戸大学が三木市民病院と小野市民病院の統合を提案</p>



数で振り返る10年 よりよい医療のため 患者さんにも医療従事者にも 求められた環境へ

医療機能の充実や魅力ある病院をめざして取り組んできた、北播磨総合医療センターの進化を数字で紹介します。



医療機器の進化 患者さんの負担を減らす

放射線を扱う中央放射線室で、緊張感をもって業務に励まれている中央放射線室谷口室長。中央放射線室や医療機器の進歩についてお話を聞きました。

患者の数

開院以降、医師の増加や病棟の増加により、患者は増加しています。また、センター制の導入により、さらに専門性の高い医療体制となりました。

入院患者数(月平均)

平成25年度(開院時) 8,160人 → 令和4年度 10,351人



- ・病棟を順次開設していき、入院患者が増加。
- ・手術件数は、月平均450件。開院当初より月平均100件増えています。

外来患者数(月平均)

平成25年度(開院時) 14,893人 → 令和4年度 21,135人



- ・医師数の増加に伴い外来の受け入れが年々増加
- ・センター制の導入により、各分野の専門医師が充実し、幅広い診療が可能に

医師の数

開院前、三木市民病院と小野市民病院には「医師不足」という課題がありました。北播磨総合医療センターは現在、医療人にとっても魅力的な環境が整い、若手医師が専門的かつ高度な医療を学べる病院となっています。

医師数

平成25年度(開院時) 86人 → 令和4年度 174人 (開院時の約2倍)



- ・三木市民病院と小野市民病院を合わせて62人であった医師数と比べると約3倍に。
- ・医療体制の充実とともに、医療技術職も年々増加。
- ・幅広い診療と充実した指導医が多くいることで全国各地から研修医が受け入れ可能に。

がん治療の負担軽減
がん治療には、手術、化学療法、放射線治療があり、これらは単独で行うことはほとんどなく、他部門との連携が大切になります。放射線治療は、侵襲が少なく、入院せずに治療できることがメリットです。痛かったり、辛かったりするのはないかと心配される方が多いと思います。しかし、医療機器の発展・発達により、周辺の臓器に放射線が当たって臓器障害が起らないよう、当医療センターの放射線治療

患者さんのニーズに合わせた撮影が可能
MRIは、エックス線を使用せず、強い磁石と電磁波を使って人体の輪切り画像を描写する機器です。また、今年度、当医療センターに導入予定のMRIには、AI（人工知能）が搭載されており、撮影時間の短縮はもちろん、閉所恐怖症など、狭い空間が苦手な方にも動画を見ながら撮影を行うなどそれぞれの患者さんのニーズに合わせた撮影も可能になり

中央放射線室の医療機器の進化も素晴らしい、撮影の画質はある程度のレベルまで達しているため、これからは低線量や高速化など、患者さんにとって負担にならない機器が増えてくると思います。
患者さんが安心して当医療センターに来てよかったですと思えるように、患者さんの視線で対応できるようにスタッフと共に、患者さんに優しい医療をめざします。

中央放射線室のあゆみ
中央放射線室では、がん治療のひとつである「放射線治療」、放射能を出す薬を体内に注射し、体内から放射線を撮影する「核医学」、レントゲンやCT、MRIなどを用いる「診断」を行っています。
開院からスタッフが控え、現在32名になっています。中でも、乳がん検診（マンモグラフィ乳癌撮影）のニーズが高まったため、女性技師数が開院時の2倍に。乳がんは、女性ならではの病気なので、安心して受けてもらうため、女性技師のみで対応しています。

撮影時間の短縮
CTは、人体の輪切り画像を描写する機器として、あらゆる病気の精密検査に使用されます。当医療センターでは2018年に新たなCT装置を導入し、一度で撮影できる範囲が拡大、撮影時間の短縮につながっています。
療を行うリニアックには、がんの部分へ集中的に放射線を当てることでできる技術を搭載しています。がん拠点病院として、放射線治療はなくてはならないものです。今後はがん治療において、より侵襲の少ない放射線治療が活用されていくと思います。

治療方法の増加や医療機器の進歩は、選択肢が増え、患者さんにあった優しい医療に繋がっていくと思います。
中央放射線室の「〇分くらいなので、我慢できますか」などの声掛けもでき、患者さんが安心して検査を受けていただけるようになります。
より患者さんに優しい医療を
治療方法の増加や医療機器の進歩は、選択肢が増え、患者さんにあった優しい医療に繋がっていくと思います。



中央放射線室
谷口慎二室長